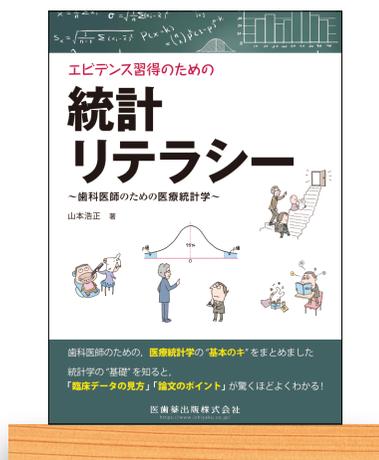


歯科衛生士にもぜひ
トライしていただきたい
医療統計学の入門的良書



エビデンス習得のための
統計リテラシー

歯科医師のための医療統計学
山本浩正 著

B5判/144頁 定価 5,000円＋税
医歯薬出版 (2020年7月)

DUO specialists dental clinic (大阪市北区)
評・大月基弘 (歯科医師)



$P < 0.05$, この言葉が身近なものになって20年あまり。私は山本先生が大阪大学の総合診療部で非常勤講師をしている際に出会い、大きな衝撃を受けた。当時私は研修医2年目、初心者マークつきである。山本先生のペリオの話はとてもおもしろく、奥が深い。ただただ完璧であり、プレゼンテーションは驚嘆の連続であった。そんな先生の話の幹は分厚い科学的根拠による裏づけがいつもあった。私は当時『イラストで語るペリオのためのバイオロジー』（クインテッセンス出版）、いわゆる赤本と“山本ファン”にはよばれている??本を愛読しており、何度も何度もわからないながらもページをめくり直した。いまでもときおり、わからないことがあれば開く。20年も前の本なのに、いまだ

にバリバリ現役である。その科学的根拠とやらを理解するのにどうしても避けて通ることができないのが統計学なのである。先に言うておくと、そう簡単に中上級者になれるものではない。統計学というのは分厚い1つの学問なのである。本の裏表紙には“めざせ、クルマを運転できるレベル!”とある。どのように論文が設計されていて、どんな解析を行ったのかを自分のアタマをとおして“おおざっぱに”評価できるようになるということであろう。

あらためて本をパラパラとめくり、熟読態勢に入る。いままでも統計学は勉強しているが、やはり生兵法である部分があることにあらためて気づかされる。ノンパラメトリック検定の説明など、目からウロコで秀逸である。しかし、“伝える達人”山本浩正先生をもってしてもやはり統計をできるだけ簡単に説明することに苦慮されているのが手に取るようにわかる。

エビデンスには“つくる”、“つたえる”、“つかう”の3つのフェーズがある。臨床に携わっている歯科衛生士はまず、“つかう”のスキルをすこしばかり上げてみる努力をしてみるのはどうだろう。論文の世界は広く、深淵で、ときに足元を明るく照らしてくれる。この本はみんなが苦手な統計といういばらの道をすこしばかり歩きやすくしてくれる。この良書を歯科医師だけのものにしておくのはもったいない! 歯科衛生士の仲間どうして、輪読会などやってみてほしい。楽しみながらチャレンジしていただければ、歯科の理解だけでなく、たとえば昨今、世間で話題になっている新型コロナウイルスに対するPCR検査とはどのようなものであることがわかり、“ねえねえ、PCR検査ってヤバイよね”(おっちゃんの私にはヤバイの使い方は難しい)といったスタッフルームでの会話にも役立つこと間違いなしである。
注: ちなみに本書は、そのPCR検査について理解するためのお役立ちコラムも掲載している。